

12 番 富 田

受付番号第8号、質問議員12番、富田陽子です。

件名、1. 森林の多面的利活用の展開は。

2. オーガニック給食の導入を。

1. 当町の面積の9割を占める森林の多面的利活用、保全再生が山北町の「なりわい、いきがい、にぎわい」につながると考える。

また、世界的な新型コロナウイルス感染によるウッドショック、戦争による円安、燃料・物価高騰など、海外の資源に依存することによる影響が、行政の執行や住民の家計に影響を及ぼしている。今こそ地域で自給できる仕組みや支援を整え、持続可能な社会を目指していくべきであると考え、問う。

①所信表明で示された森林利活用の展望は。

②建築資材、エネルギー資源、木育の材料として、今後の木材活用の方向性は。

③観光によるオーバーユースや、災害・開発・放棄・獣害等による森林の荒廃に対する環境保全再生の対策は。

2. 子どもの口に入れる食べ物がどこで作られ、安心安全で、かつ持続可能な方法でつくられているかを重視している保護者が増えている。給食に使われる食材を近隣地域でかつ有機栽培された野菜を積極的に取り入れることで、食育や子育て支援、農業支援にもつながると考え、問う。

①有機栽培された食材を積極的に取り入れた給食の導入について、町の考えはいかがか。

議 長 答弁願います。

町長。

町 長 それでは、富田陽子議員から「森林の多面的利活用の展開は」、「オーガニック給食の導入を」についての御質問をいただきました。

初めに1点目の「森林の多面的利活用の展開は」について、1番目の御質問の「所信表明で示された森林利活用の展望は」についてであります。所信表明でお示した「森に囲まれた教室」の開設については、共和地域で行われている「川崎市交流事業」や「水源地域交流事業」、また、今年度より実施しております川村小学校児童による「森林体験学習」をベースとして、子どもたちがより安全で安心して森林体験活動ができるよう、森林内に見学

用の経路や作業広場、休憩エリア等の整備を進めたいと考えております。

さらに、共和のもりセンターの機能を生かし「間伐材クラフト教室」や「山の恵み料理教室」といったことができないか検討してまいります。

また、森の情報発信については、県立西丹沢ビジターセンターと連携し、登山客によるSNSでの情報発信を促進する方法を検討したいと考えております。

次に、2番目の御質問の「建築資材、エネルギー資源、木育の材料として、今後の木材活用の方向性は」についてであります。まず、建築資材につきましては、町内産の木材を積極的に活用する「旧山北体育館代替体育施設」の建設を令和6年度に予定しておりますが、実際に建築資材として町内産の木材を活用していくためには、品質、搬出量、製材方法などにおいて課題が多いので、県森林協会や森林組合等の関係機関と連携して、町内産の木材を活用する仕組みづくりを進めていきたいと考えております。

また、木育の材料といたしましては、今年度より、こども園等に町内産を含めた地域木材を活用した遊具等を導入してまいります。そして、来年度以降には、小・中学校の各教室の表札や学習机の天板の導入なども考えております。

次に、3番目の御質問の「観光によるオーバーユースや、災害・開発・放棄・獣害等による森林の荒廃に対する環境保全再生の対策は」についてであります。森林の荒廃化防止には、これまで水源の森林づくり事業などで実施してきた間伐、枝打ち、下刈り等の森林整備を引き続き計画的に実施していくことが重要であると思っております。

一方で、獣害に関しましては、広域ジビエ処理加工施設の導入による有害獣の捕獲促進が期待されており、現在、施設の早期稼働に向け、足柄上地域5町により調整を行っております。

また、登山者の過剰利用による登山道の損傷や踏みつけによる森林植生の退行などのオーバーユースについては、早期の発見とその対応が重要であることから、登山者による被害情報の提供方法などについて、例えば道標にQRコードの設置や位置情報とSNSを活用したシステムづくりを検討していきたいと考えております。

次に、2点目の「オーガニック給食の導入を」についての御質問の「有機栽培された食材を積極的に取り入れた給食の導入について、町の考えはいかがか」についてであります。オーガニック給食は、有機栽培された野菜を使用することで農薬・化学肥料の使用に伴う環境への負担軽減等有意義な取組であると承知しております。

しかし、有機栽培された野菜は生産者が少なく、給食に必要な数量の確保が難しいことや価格が高いこと、調理の際の下処理に時間がかかるなどの課題があります。

また、現在、町内において有機栽培の野菜を調達することが難しいことから、地産地消による地場産物の活用率の低下も考えられます。

学校給食は、限られた予算の中で、大量の食材を限られた時間で調理しなければならず、有機野菜の供給量やコスト、下処理などを考慮すると、現段階において積極的に活用していくことは困難であると考えております。

議 長 12番、富田陽子議員。  
12番 富 田 では1問目の質問から再質問させていただきます。答弁にありました「森に囲まれた教室」の開設については、確認ですが、今後共和のもりセンターを拠点として共和地区の森林内を整備していくということでしょうか。

議 長 農林課長。  
農 林 課 長 町長の答弁にもありましたとおり、現在、共和地区で実際に子どもたちが森林の学習を中心に行っておりますので、山北町内ほかにいい場所があれば、もちろん、そういう場所も対象になると思うんですけども、現実的には共和地区が行っているエリアで実施するのがいいかと考えております。

議 長 富田陽子議員。  
12番 富 田 もし、具体的な整備計画等がもしあれば、御説明願います。

議 長 農林課長。  
農 林 課 長 こちらも現在、実際に共和地区において、いろいろな課題、例えばヤマビル一つとっても、一度交流事業をやるに当たって、地域の皆さんが前日に消毒、防虫を行ったりすることを含めて、または間伐する上では、なかなか危険が伴うということも承知しておりますので、そういうところなるべく子どもたちに負荷がかからないような場所、例えば富田議員も御存じの

とおり、先日川村小学校の生徒を案内した場所であるとかというのがかなり有効な場所であると認識しておりますけども、もちろん、受入れ側の地域の皆さんの御要望ございますので、農林課といたしましては、地域の希望をお聞きしながら対応していきたいと考えております。

議 長 富田陽子議員。

12 番 富 田 これまで共和地区で取組をしていた森林体験教室ですとか、そういうことが、これが実を結んで共和地区を中心に、こういった整備をしていただけるということは大変うれしく思います。

一つ確認なんですけど、昨日の一般質問の答弁の中にもありました玄倉の森林館を利活用した子ども向けの施設というのは、また、「森に囲まれた教室」とまた別のことをここでは考えられているということなんですか。

議 長 町長。

町 長 玄倉の森林館や薬草園については、民間企業等タイアップして、そういったようなことを進めていきたいというふうに考えております。また、共和かどこか、その森林の再生をしなければいけないというふうに思っておりますので、ただ単に今やってらっしゃる、子どもたちのところということになると、やはり共和のもりセンターとかそういったところになってしまうというふうに思いますが、それ以外のところをどういうふうに活用していくかということも大事なものだというふうに考えておりますので、そういった中では、いろいろな試行錯誤をしながら、その森林の再生をやっていきたいなと思っております。

できるかどうかは分かりませんが、私の一つの頭としては、ある区間をちょっと柵を作って、そこにヤギとか羊とか、鶏が分かりませんが、そういったような動物を放し飼いにして、その堆肥でその地域を少しでも再生できるようなことができないかというような、そういうようなことを、ある地域では豚を使ってやっているというようなことも聞いておりますし、そういったような動物を使いながら、ある一定の区間を少しずつ森林再生ができないか、少しでもそれを利活用できないかというようなことを考えながら進めてまいりたいというふうに思っております。

議 長 富田陽子議員。

12 番 富 田      その森林の活用に関してなんですが、1年前の町長との座談会の際から、森林の活用の一つとして、CFO制度をやっていききたいというふうに町長話されておりました。昨日の答弁の中でも出てきたかと思います。今年5月の地域情報誌への掲載の中でも、「森」の活用を子どもたちと。山北町で進むCFO制度というふうに書かれていましたが、これ私自身も大変興味ありますし、町民からも多数問合せが来ているんですけども、議場や全協で伺ったことがなかったので、具体的にどのような制度なのかを御説明伺います。

議 長      町長。

町 長      私も4期目のぜひやってみたいことの中に、CFOという、チルドレン・フォレスト・オフィサーというような考えがございます。こういった考えに賛同していただく企業なり、個人なりを広く、山北町に誘致して、そして一緒になって、この山北町の自然を利活用できないかというようなことで、今、企業版ふるさと納税のほうで、そういったようなCFOを何とか、皆さんに知っていただいて、そして協力していただけるような、そんな取組をしていきたいというふうに思っておりますので、若干、まだ時間はかかると思いますが、そういう方向でやっていききたいというふうに思っております。

議 長      富田陽子議員。

12 番 富 田      今その説明していただきました、その町長の思いが、CFO制度なんだということは理解しましたが、今、私自身もその森林や山と人の暮らしというのが離れてしまっている現在の状況で、林業従事者がどれだけ増えても、補助金がどれだけ充実しても、山がよくはならないなと感じているので、その町長の思いというのは理解するんですけど、具体的なそのCFO制度というのが、いまいち山北町として、その制度というものを使って何かをするのか、制度自体をどう山北が形にしていくのか、その辺をちょっともう少し御説明をお願いします。

議 長      町長。

町 長      当然、山北町だけでできるというふうには思っておりませんので、これに賛同していただける個人や団体、企業、そういった方が、町にかなりの投資をしていただけるような仕組みづくりができないかということで考えております。それは当然、財政的なこともあるでしょうし、また人材的なこともあ

るでしょうし、当然町内だけでは、この今の人口ではなかなか難しいというふうに思ってますんで、外部からそういったような人たちが協力していただけるような方法を何とか工夫して進めていきたいというふうに考えております。

議 長 富田陽子議員。

12 番 富 田 今、民間という言葉も出てきましたが、ふるさと納税の返礼品の中間事業者として、山北町と業務提携をしている某ベンチャー企業のホームページにもそのCFOという記載がありまして、子どもたちと山北町の未来をつくるとありますが、この企業とCFO制度についても業務提携をしているという認識で合っているのでしょうか。

議 長 町長。

町 長 そうですね。そういったような認識で今やらさせていただいておりますんで、まだまだ一般的に知れ渡っておりませんので、これからそういったような考え方を皆さんに知っていただければというふうに思っております。

議 長 富田陽子議員。

12 番 富 田 この企業と業務提携しているということは、CFOの具体的な、山北町で行いたいという事業を町が企業に委託するという形になるんですか。

議 長 町長。

町 長 ですから、今、CFOについて町の基本政策の中に何とか盛り込めないかというようなことで考えておりますんで、そういった中で、やはり町として、この森林を何らかの形で利活用していくために私はCFOという考え方も大事ではないかというふうに考えております。

議 長 富田陽子議員。

12 番 富 田 CFOという考え方ということがちょっと分かりにくいんですが、その子どもの森林責任者という英語の訳になるかと思うんですけども、それはその例えば子どもと森林が関わればもうCFOに当てはまるのか、共和でやることもCFOに当てはまるのか、どういうふうな、何がCFOなのかということが今私の中で見えてきてないんですけども、もう少しその説明いただいてもいいですか。

議 長 町長。

町 長 簡単に言ってしまうと、今ある自然を未来の子どもたちに残したいという  
ような考えですけど、その方法はいっぱいあるというふうに考えております  
ので、この方法だけがCFOだというふうに考えておりませんで、そういつ  
たような、今ある、町が持っているこの自然を壊すことなく、次の世代の子  
どもたちにどうやって引き継げるか、そのためにいろんな方法があるのでは  
ないかというのが、私のCFOに対する考え方でございます。

議 長 富田陽子議員。

12 番 富 田 いろんな考えがあるという中での、今後ということなんでしょうけど、そ  
の業務提携している企業がホームページの中で森林活用の具体的構想として、  
タイムカプセルを自由に埋め立てることができる森林、埋立地構想ですとか、  
山北町の森林が当たるガチャガチャなど、山北町で思い出をつくりにくる多  
くの層が面白い企画を実行とあるんですけども、こういうことも山北町が  
委託をしてやっていくということでは合ってるんでしょうか。

議 長 町長。

町 長 ですから、これがCFOで、この事業ですよということではなくて、相対  
的な、まず自然を子どもたちに残したいということと、それからいろんな施  
策ですね、山北がやるものもあるし、あるいは企業さんがこういう考えでや  
る、例えばゼロカーボンでやりたいとか、あるいは木のいろいろな、何てい  
うんですか、子どもたちの遊び場であるとか、あるいは癒やしであるとか、  
学習であるとか、そういったようなものも当然入ってくると思いますし、そ  
れらは、それぞれが皆さんがこういったことをというふうに考えることは、  
当然、我々としては幅広く受け入れて、そしてやっていただけるんなら、非  
常にありがたいというふうに思いますが。ただ、そうはいつでも山北町とし  
てはいくつかのメニューを考えなければいけませんので、そういう中では、  
森の学童というか、そういうようなものも当然考えていって、その中でもう  
少しスキルアップして、磨き上げていきたいというふうに考えております。

議 長 富田陽子議員。

12 番 富 田 今おっしゃっていた森の学童、あるいはこれまで話されていた森の託児所  
ということをイメージされているようなんですけども、そういうのはもう来  
年度からの計画に盛り込まれていたりとかするものなんですか。

森の託児所とか、森の学童ですとか、具体的なその内容が出てきてますけども、それがCFOに当てはまることであり、来年度以降、山北町としてやっていきたいということなんですか。

議 長  
町 長

町長。  
私個人としては、そういう方向でやっていきたいというふうに思っておりますし、それは総合計画なり、いろいろな計画の中で順次優先的なものがあれば、そちらのほうが優先されるでしょうし。そういったようなことでは、絶対これを優先に、最初にやっていくんだということではございませんけど、今そういったことを総合的に勘案しておりますので、やはり今やっている川崎市との交流とか、いろんなところをやっておりますので、そういった事業は大事な事業ですので、そういったところは積極的に進めながら、さらにそれをスキルアップできるような事業を進めていきたいというふうに思っております。もちろん、託児所とかそういうのは、一番皆さんに理解していただく具体的なイメージではないかということで伝えてありますので、これが当然少しずつ変化していくというものはあり得るのではないかというふうに思っております。

議 長  
12 番 富 田

富田陽子議員。  
ある取材の記事では、森の託児所の予算措置、予算をかけないというふうな取材の記事が出ていまして、先ほど出ましたベンチャー企業がその活用を考えているという形になっているとありまして。そういうことが取材のネットの記事から分かったことなんですけど、これまでそういった内容というのが、議会として説明が受けてこなかったもので、今改めてどういった経緯で、企業にそういうことを計画されているのか、どういった契約内容なのか、お聞かせ願います。

議 長  
町 長

町長。  
具体的に、どの企業ということはないんですけど、今いろんな提案を受けております。そういう中でのプレゼンがこれからあるというふうに思っておりますので、そういった中で、山北町に一番ふさわしいものを選んで、そして、また町と一緒に協力してやっていけたらいいなというふうに思っておりますので、今複数のところが来ておりますし、また私もこの間長野に行っ

たときに、そういったような白馬のほうで、スノーピークというようなところも視察してきましたし、様々なところでいろいろな企業が、そういったような自然を活用した提案をさせていただいておりますので、そういったものが山北町とどのようにマッチングできるかということがこれから非常に大事ではないかというふうに考えております。

議 長 富田陽子議員。

12 番 富 田 様々な企業が今後プレゼンして、そこから選ばれるということなんですけれども、このふるさと納税の中間事業者の方がその得られた寄附金の1割程度の金額を原資として森林の活用にというふうな記事があったんですけども、その事業者がやるわけではないということなんですか。

議 長 町長。

町 長 そうですね。あくまでも企業版ふるさと納税ということを考えますと、町のそういったようなことに対して、企業がぜひ積極的にやってほしいということで寄附をしていただけるわけですから、主体は町になるというふうに思っています。ただ、企業の寄附していただく意向がありますので、その方向によって、それを使っていくというようなイメージだというふうに私は今のところ捉えております。

議 長 富田陽子議員。

12 番 富 田 そういったことが、これまでの今回の所信表明のところには出ていなかったんですけども、それは行く行くということなんですか。

そのCFO制度を含めて、今回の7月に出了された所信表明の中には、具体的にそういったことを考えられていますけれども、その所信表明の中には示されていないかったというのは、これはなぜなんですか。

議 長 町長。

町 長 今いろんなものが絡んでると思います。私としては、山北町にある、これだけの森林を生かしたものをCFOというような切り口で少しでも前へ進めたい。一方では、ちょうどタイミング的には新東名のスマートインターが開通する。そこに来ていただく方に何を見ていただくか、何を楽しんでいただくかというときに、やはり一つはそういったようなキャンプであるとか、CFOであるとか、森林であるとか様々なものが対象になるのではないかと

うふうに思っております。かなり、まだ具体的なものがお示しできないのが歯がゆいですが、全体としては、様々なものがこれから、かみ合っていくのではないかと、またかみ合わせて何とか皆さんにお示ししたいというふうに思っております。

議 長 富田陽子議員。

12 番 富 田 これからが本番というか、今後これを活用してということなんでしょうけれども、話戻りますが、先ほどのそのCFO制度として業務提携された企業というのは、これまでに森林の活用についての実績等があって、このところを選ばれたのか、どういった経緯でこの森林活用について提携をされたのか、ちょっと御説明願います。

議 長 町長。

町 長 具体的なことについては、森林館・薬草園については、企業のほうからそういうような提案をいただいております。また、つぶらの公園のかんぼの跡についても、様々なグランピングであるとか、そういったようなこともいただいておりますし、また大野山、あるいはほかのところでも提案はいただいておりますけど、なかなかそのところを活用するというのは、非常にハードルが、保安林であったり、いろいろな交通の問題であったり様々な問題で、なかなか実現が難しいというのが、今現状でございますので、町といたしましては、今の現状の中でできる範囲のことを、まずやっていかなければいけないというふうに思っておりますので、その中で、ちょうどタイミング的には、新東名のスマートができたり、そういうようなことが見通しておりますので、そういったものと含めて、どのように町のグランドビジョンを少し描いていけるかというようなことを考えております。

議 長 富田陽子議員。

12 番 富 田 すみません、ちょっと私の質問の趣旨が伝わってなかったかと思うんですけども、そのCFO制度で業務委託した事業者がこれまでの実績があって、そのような業務提携をされたのかどうかということをもう一回お聞きします。

議 長 町長。

町 長 ぴったりそのCFOの考え方に100%すばっと入るかかどうかというのは、ちょっとまだ実際にそういう提案を受けておりませんので、できませんけど

も、基本的には先ほど言ったC F Oの制度というのは、あくまで未来の子どもたちに今の自然を残したい、そのためにどうしたら今の自然をあまり壊さないで維持できるかということがC F Oの根本的な考え方でありますので、そういったような枠の中で広く考え方を理解していただけるような企業なり、個人なり、団体のほうの皆さんに理解していただければ、協力をいただけるんじゃないか。ただ黙っていても協力していただけませんから、そのためにはいろいろなふるさと納税であるとか様々なものを活用して、やっていかなければ、ただ言っても。実際に、私も今知り合いの首長とかにしゃべりますけど、話は分かったよと言うんですけど、具体的なことは起きてきませんので、そういったような具体的なことはこれから起こるように動いていきたいというふうに考えております。

議 長 富田陽子議員。

12 番 富 田 何か質問と答えが若干、あまりじっくり自分の中では腑に落ちていないんですけども、今後そういうところを、企業なり、いろんな民間企業との連携で山北町として森林を活用していくということだと、やはり町民にも広く理解を得られなければとも思いますし、この議会としてもそういうことの説明を受けたいと思うんですけども、そういう点はいかがでしょう。

議 長 町長。

町 長 当然、これから広く皆さんに理解していただくようなことはやっていかなきゃいけないと思うんですけども、今現在、富田議員からの質問の中の答えとしては、農林課長が申し上げたとおり、今現在進めているところをしっかりと、まずやっていかなければいけないというふうに思っておりますので、その先にあるのが、C F Oといったような私のこの4期目の考え方の中に入っておりますので、それらはこれから計画の中でしっかりと位置づけをしていきたいというふうに考えております。

議 長 富田陽子議員。

12 番 富 田 それでは、2つ目の質問の②の質問のほうに移らせていただきます。

今後の木材活用の方向性についてはという答弁の回答では、「旧山北体育館の代替体育施設に、町産材を活用していくには課題が多い」という回答ですが、現在のその具体的な木材の数量ですとか、県産材や町産材の確保等、

現在の進捗状況が分かる範囲でいいので、説明があれば願います。

議 長 農林課長。

農 林 課 長 まず現在、山北町で間伐を中心に、木材として搬出している数量が、年間約2,000立米前後でございます。この2,000立米というのはどのぐらいかということなんですけれども、今回、旧山北体育館代替体育施設を木造で建築した場合に使う資材、木材量が約300立米と考えられております。ですので、余裕に建てられるとお思いでしょうが、建築材として、木材を利用する場合には、これは法律の中で、いわゆるA材と言われるものではないと建築の構造、例えば柱とか、構造に重要な部材には使えないということになっておりまして、300立米の木造建築のうち、約9割がA材でないと建築できないと。一部、相当加工料金の高い集成材で構造材として使えるというのがあるんですけども、基本的にはA材が90%必要だということ。単純に270立米が必要だということなんですけども、山北町、先ほど約2,000立米の搬出木材があるんですけども、高く見積もってもそのうちの2割程度しかA材がないという形になっておりまして、なかなか山北町内だけで建築資材を調達するというのは、まずそこが課題だと。

あと例えば材木を切り出しまして、木材にして使うとなりますと、当然その丸太で出したものを製材をする、製材をしてから乾燥をする、それから建築資材として使うという中が、なかなか山北町内でそれが完結するようにはなっていないと。こういう問題がありますので、今、生涯学習課のほうを中心となりまして、そういう木材建築にたけている専門家の方を、アドバイスを聞きながら今実施をしているという状況で、取りあえず令和6年度でございますので、今年度より町内産の木材を確保するような形で今農林課として動いているというような状況でございます。

議 長 富田陽子議員。

12 番 富 田 内容については理解いたしました。また木育の材料としましても、今年度からこども園等に町産材を含めた地域木材を活用した遊具等を導入していくというふうに考えられて、導入していただけるわけなんですけれども、こちらのほうに関しての進捗具合というのは、どういった感じでしょうか。

議 長 農林課長。

農 林 課 長

こちらに関しましては、先ほど町長の答弁にもございましたけども、今年度、こども園等に遊具をまず導入して、今製作している最中でございます。こちらにつきましても、加工していただいている業者さんが、一応間伐材を、山北産の場合は写真等を撮りながら、山北のどこどこで産出された間伐材だという形を証明していただきながら造っております。ただし、こちらも全部が全部山北町内かという形では、なかなか難しい状況でございますので、足柄地域とか、そういう形の中で、地元産の木材を利用して遊具のほうを造っております。現在、こども園、向原保育園、あと岸幼稚園、こちらのほうに、先日議会でも説明させていただきました内容についての遊具等を、今制作をしているというような状況でございます。

また、来年度以降になりますけども、今度は、中学校等の各教室の表札、または学習机の天板、こちらは、かなりほかの市町村でもやっていることではございますけども、天板のほうを、これは特殊な加工は必要ないんですが、全て町内産でできるような形で、一応調整をしているような状況でございます。

議 長

富田陽子議員。

12 番 富 田

この構造材としての山北町産材というのは、課題が多いということは分かりましたけれども、木育の材料という観点からはこの町産材、地域木材を積極的に使用していただける機会が多くなってきているということは大変うれしく思いますし、今この町がこのように積極的に取り組む姿勢を見せて、実際に山北の木が加工されて多くの方に、目や手で触れていく機会が多くなっては、林業従事者とか、森林所有者の意欲にも増していくと思いますので、今後も積極的に取り入れていただきたいと思います。

このA材ですとか、いい材を確保するというのは今すぐには難しいことかもしれませんが、木育等、様々な木材を町産材で賄うといったときに、一つの提案ですけども、近隣では、小田原市が基金材という仕組みを取り入れています。実際の山の現場では、森林の長期的な計画に基づいて間伐や搬出を行っています。かつ、切って乾燥も必要なので、すぐ使用できるわけではないというのが木の特徴なんですけども、いきなり建物建てるからとか、いきなりまとまった数量が欲しいというニーズに、その地産地消というところで

いくと、ニーズには対応できないという問題もあると思います。小田原市では、毎年決められた予算額を木材の伐採、搬出、製材、乾燥、そして保管等のために確保されていまして、毎年一つの学校の木質化やリフォーム等に使用されているという現状があります。

このように一定の予算額が確定されていれば、現場側も計画的に伐採、搬出することができますので、山の斜面や作業員への負担も軽減されますし、材料が必要になったときに、急に予算を確保しなくて済むので、早く着工できると思うんですね。なので今後、森林環境譲与税の一部をこのような形で町内の木材調達に計上していくということが、今後も木育ですとか、建物の町産材の木材を利用するというときに利用しやすくなるのではないかなど考えておりますが、そこら辺はいかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 非常に、木育については、山北町、これだけ森林が多いもんですから、必要だというふうに考えております。そういう中で、今言ったような予算的なことについては、まだ1回も話はしておりませんが、山北町三つの財産区がございます。その財産区の中で一定の金額をもし出していただければ、そういったような木育のところができるのではないかなというふうに思っておりますので、今度一回、財産区の管理会の中で話してみたいというふうに思っております。

議 長 富田陽子議員。

12 番 富 田 じゃあ、そこはもう森林環境譲与税というわけではなく、財産区と連携してという考え方ということですね。財源は今後話し合っていたきたいことですけれども、木材の一つのストックの形として、災害時の仮設住宅等の材料としても、そういう木材を一定の予算額が確保されていれば、ストックできるのではないかなというふうに考えています。一つの例ですけれども、板倉工法という同じサイズの4寸角の柱と3寸の板のたった2種類だけで構造材や、屋根から壁まで造れてしまうという造り方もありまして、それが実際に3.11の震災の際には、福島で復興住宅として建てられて利用されたということです。解体もしやすいので、仮設住宅が終了した後は、住居としても使うことが可能だということです。こういう木材の一定程度の予算額が確保されて、

木材がストックされるということによって、災害時にもし町民の方で被災して家に住むことができなくなった方のためにも、こういう木材がストックされるということで安全、災害対策にも応用できるのではないかと思うんですけども、その辺はどうお考えでしょうか。

議 長 町長。

町 長 もう既にその提案は、財産区のほうから受けておりますけども、まず手順としては、貯木場を今、森林組合等でも探しております。いきなり製材にできるわけでは、まあ数量が決まっていればできますけども、できるわけではないので、切ったものをある程度、貯木場で乾燥させなければいけない、その場所が今、どこが適切かということで、森林組合さんのほうで探しておりますので、そういったような、まずそのところを始めて、そこから次に、今度は貯木場から製材に持って行って、製材したものを今度はどこに置いておくのか、濡れないような建物も必要になるということで、段階的にやっていかなければいけないというふうに思っておりますので、少しずつ始めたいというように思っております。

議 長 富田陽子議員。

12 番 富 田 そこは前向きに検討していただきたいと思います。

2点目の質問に移ります。答弁の回答では、このオーガニック給食の導入というのは「課題が多くて積極的に活用していくのは困難である」という回答でしたが、現在この川村小学校で山北の食材を取り入れた献立が、「かながわ学校給食夢コンテスト」にて、教育長賞を受賞されたりですとか、園、小中統一メニューとして、山北「鉄道の日」献立には、山北産の食材を多く使った給食というのを提供されておまして、食育や地産地消をはじめとして、給食にかなり力を入れられているなというのが実感としてあるんですけども、この山北産の食材というのは、現在どのように調達されているのでしょうか。

議 長 こども教育課長。

こども教育課長 山北産の材料になるんですけども、野菜につきましては、実際に名前を出していただくと、「とれたて山ちゃん」、こちらのほうは、園のほうも、小中学校のほうも使わせていただいておりますので、それ以外、そこで調達で

きない野菜は、町内の商店等を使わせていただいております。それと、もやし等につきましては、製造販売している会社が町内にございますので、そちらのほうから調達と。あと肉等につきましては、やはり町内のお肉屋さんのほうから買わせていただいております。「とれたて山ちゃん」につきましては、町内の方の農業従事者の方のものがほとんどですので、これは町内産を使えるということですが、それ以外の肉とか、それ以外、仕入れてきたところが県内なのかその辺はちょっと不明ですが、そちらのほうを使わせていただいております。パン、牛乳、御飯につきましては、これは学校給食会というのがございます。そちらのほうを通しまして、そちらの指定の工場のほうから入れさせていただいております。牛乳につきましては、中井にあります、旧の共楽の今、あしがら乳業だったか、タカナンですね、そちらのほうから入れているんです。それと、米とパンにつきましては、学校給食会の指定の工場がたまたま町内にございます。そちらのパンの工場のほうから入れておまして。こちらのほうは、聞いてるところだと上郡、ほとんどがそちらのほうから入れていると聞いております。

議 長  
12 番 富 田

富田陽子議員。  
様々な食材を近隣地域で調達できているということを理解いたしました。そして野菜については、山北産の「とれたて山ちゃん」から生産者から、山ちゃんを通して購入されているということが理解しましたが、答弁にあります「有機野菜を調達することは難しい」ということなんですけども、この生産者さんとうまく連携を取って有機栽培で作ってくださいというお願いするというのは、難しいことなんでしょうか。

議 長  
町 長

町長。  
我が家でも、山北中学校のほうに筍なんかをやっておりますけど、基本的には、私は、オーガニックもいいんですけども、ナチュラルな自然のものがいいんじゃないかというふうに思っておりますので、そういった方向で、やっていたらというふうに思ってます。

オーガニックに関して、諸外国では非常に盛んですけども、日本については、非常にそこが曖昧で、例えば種なんかにそういうような規格が全くない。外国ですと種から有機栽培じゃないと駄目というようなところですけど、日

本ではそういうのはございません。ですから、やはりオーガニックというのは、日本ではなかなか、やっている農家結構いらっしゃるんですけど、なかなかそのところは定着しにくいというのは、やはり我が家も農家ですから分かるんですけど、やはりなかなか抵抗があるんで。コストもかかる、それから金額も。農家にとってはいいことなんですけど、買っていただく方はどうしても、そういったような高いものになってくるというようなことは伺いますんで。我々としては、できるだけ低農薬、あるいは全く無農薬で自然なナチュラルな食材が提供できないかというようなことを考えておりますんで、そういった中では、これからは、今、何ていうんですか、こういった世界的な、肥料の高騰とかそういうのを考えますと、やはり日本が一番進んでいる、そういったような例えば土壌細菌とかそういったようなものを生かしながら、農業を進めていけたら、そういったような食材は無農薬でもかなり低コストでも可能ではないかというふうに思っておりますので、そういった方面に力を入れていきたいというふうに思っております。

議 長 富田陽子議員。

12 番 富 田 オーガニックとか有機とかという言葉を使うと、どうしても J A S 認定とか、そういうふうな認定されないとみみたいな基準が出てきてしまうと思いますが、今町長言われたように、そのナチュラルですとか、低農薬とか、そういったその既存の J A S 認定とかにとらわれず、山北町が考える安全な野菜ということの基準をつくっていただければ、導入というのは難しくないと思うんですね。私が一番導入に必要だと、オーガニック給食の導入が必要だと思う理由の一つで、今町長おっしゃられてたように、日本は農薬大国と言われてまして、日本の農薬の使用量というのは、国連の食糧農業機関の調べでも世界第2位と言われてます。海外、特に E U でも使用禁止となった農薬も日本は使用可能で、2018年度以降、海外で禁止になった農薬というのがどんどんこの日本に輸入されているという現状があります。輸出量が多いものとしては、除草剤のパラコートとか、ジクロロプロペンというもの。それは強い毒性があったり、地下水の汚染ですとか発がん性があるというふうに言われています。日本では逆に農薬の規制緩和が行われているような現状でして、グリホサートという除草剤ですとか、ネオニコチノイド系の農薬とかの

使用が日本では可能になっていますので、海外から輸入されている、グローバル経済の中で日本が販売市場になっているという現状があるんですね。

そういったことを知らずに口にしてしまっている現状もあるかとは思いますが、生産者の方の中には、子どもたちにいいものを提供しようと思って、有害なこととか、世界的な市場を知らずに使用されている方もいらっしゃると思いますし、逆に現在も出荷されている方の中には、そういうのを子どもたちのために控えられているという方もいるかと思うんですね。

なので、そういったことから、もう少し山北町としても、出してくれる方を必ず買うというよりは低農薬ですとか、そういう発がん性のあるものを控えてくださいとか、そういったふうな食材の提供をお願いを。連携を強化すれば可能ではないかなと思うんですけども、そこら辺はいかがでしょうか。

議  
町

長 町長。

長 まず、消毒というかなんですけども、実際作ってる農家は、嫌なんですよ。自分たちが一番近くでやっていますんで、必ず副反応というんですか、そういったのはいずれ出てしまう。うちの両親なんかも、祖父なんかもみんなそうですけど、やはり80、90になるともう、その農園のほうへ、消毒したところに入ると、何ていうんですか、皮膚が反応してアレルギーが起こってしまうというようなことを経験していますので。基本的に農家は農薬は使いたくない。しかしやはり、嫌々でもそういった中で使っていく。二つ、要するに、害虫と病気のほうがあるんですけども、害虫については、手間さえかければ、ネットをかけるとかいろいろな方法で防げるんですけど、病気については、なかなかこれが防げないと、今の状況ではですね。ですから、もし病気を防ぐためにどういうふうな方法があるというので、いろいろ考えてはいるんですけど、どうしても安易な方法としては消毒してしまうというようなことがございますけど。これらは、なかなか難しい問題だとは思いますが、極力消毒を低農薬にして、農薬を使わないというようなことでは、当然、一緒になって進んでいきたいというふうに思っております。

議

長 富田議員、時間の関係もありますので、最後の質問でまとめていただければと思います。

富田陽子議員。

12 番 富 田 今回、提案させていただいたのは、かなり現実的には難しいことかもしれませんが、今年の7月に国で、みどりの食糧システム法というのが施行されて、その中の一つとして、有機農業の面積を拡大させるとか、化学肥料や農薬を低減させる目標というのが施行されました。それが結構、今後にとってチャンスになるのではないかなど。徐々に補助金とかが出てくれば、給食費の削減にも、そういうのを活用して給食費の削減にもつながりますし、購入する際の生産者のほうの助けにもなっていくと思うんですね。そういう補助金をうまく利用していただければ、今後、今すぐには導入は難しいかもしれませんが、今後山北町として、そういう安全・安心な野菜や食材を利用していくという公言することで、生産者側のほうの意識も高まると思いますし、その農家も買い取ってくれるということで収入も安定しますし、生業とか生きがいにつながっていくと思うので、今すぐということは私も考えていませんが、一品ずつですとか、月一ですとか、長い目で取り組んでいただくということを考えていただければいいなと思います。

終わります。

議 長 教育長。

教 育 長 今、言われたように、「みどりの食糧システム戦略」、目標が定められておりまして、25%ですか、農作地がね。そのうちの実際は0.2%という、まだ全然進んでいないという、そういう状況があるところの中で、今、町内の小中学校の給食につきましては、町内の割合が13.1%、それから、県内の食材が32.4%、国産割合は91.7%。非常に高い率で給食の食材を提供しています。基本的には、学校給食は安全であります。食材については、ですから、そういう中で進めておりますので、これをオーガニック、あるいは有機栽培、確かに栄養価が高いとか、味が濃いとか、いろんな利点はありますけれども、課題もいろいろ町長の答弁もありましたように、課題もあります。ですから、そのところを一つずつ解決していかなければいけないんじゃないかなというように思っております。

ですから、一度にはこれはできないところの中で、給食だけではなくて、我々3食、食べてますので、そういった中でのところの認識も、やっ

ぱり高めていかなきゃいけないんじゃないかなというふうに思ってますので、  
ちょっとすぐにはこれ解決できる問題じゃありませんけども、行く行くは、  
そういう形の中では、より安全な給食の提供ということは考えていきたいと  
いうふうに考えてございます。